関西大学年史編纂室ホームページの作成報告書

関西大学年史編纂室

平成十五年四月、関西大学年史編纂室のホームページが完成した。

ここでは、作成経緯とホームページの構成内容について報告したい。

作成の経緯

大学年史に関するホームページを作成するという話は、本学のホームページ開設準備期の平成八年春からあった。しかし、この時には年史の独立した部署がなかったことなどから、開設の段階では「大学の歴史」として概略を紹介することとなり、作成担当もホームページ管轄部署の広報課が担当することとなった。

しかし、いずれは大学年史の独立したホームページを年史担当者の手で作成したいという希望もあり、広報課も、年史の独立したホームページが出来次第、速やかに本学ホームページ内に取り込むという話となっていた。関西大学のホームページは、平成八年十月から本格的に運用することとなった。

一一五年を機に

平成十三年、出版部出版課内にあった年史編纂業務が独立し、年史編纂室が発足した。またこの年、本学が創立一一五周年を迎えるのを記念して、『関西大学一一五年のあゆみ』を刊行することとなった。関西大学年史編

纂委員会が編集し、その実務は当室が担当した。

平成十三年十月、『関西大学一一五年のあゆみ』が完成し、その配付・販売作業が軌道にのった時点で、長年の懸案事項であった当室の独立したホームページの作成が検討された。

平成十四年五月の年史編纂委員会でホームページについての議案が出され、その構成案が審議された。その結果、当該年度の業務として作業をすすめ、平成十五年四月に完成させることが委員会で了承された。

当初の計画

委員会に提出された大まかな素案は、次のとおりとなった（原案作成、年史編纂室課長・熊博毅）。

関西大学年史編纂室（History of Kansai University）ホームページ（案）

【画面構成】

1　画面は三分割のものとする。

2　第一画面はホームポジションとし、「関西大学略史・略年表」「関西大学人物史」「関西大学　栄光のスポーツ史」の三項目を大項目の選択肢とする。

3　第二画面はスクロールポジションで、第一画面で選んだ内容（年表のようなもの）が表示されるものとする。

4　第三画面は、第二画面の中で選択した項目が表示されるものとする。

【「関西大学　略史・略年表」画面の構成】

1　第一画面のホームポジションで「略史・略年表」を選ぶと、第二画面に略年表が表示される。その中から第三画面とリンクがはられている事項や人名をセレクトしてクリックすると、第三画面に概要が表示される。

2　時代区分については、以下のとおりとする。

創立期（願宗寺～興正寺時代、明治十九年～明治三十六年）

揺籃期（江戸堀～福島時代、明治三十六年～大正十一年）

発展期（大学昇格～終戦、大正十一年～昭和二十年）
飛躍期①（新制大学発足前後～創立七十周年、昭和二十年～昭和三十年）
飛躍期②（創立七十周年～学園紛争、昭和三十年～昭和四十四年）
飛躍期③（学園紛争～創立百周年、昭和四十四年～昭和六十一年）
第2世紀（創立百周年～現在、昭和六十一年～平成十五年）

【「関西大学　人物史」画面の構成】

1　第一画面のホームポジションで「人物史」を選ぶと、第二画面に五十音順で人名が表示される。その中から人名をセレクトしてクリックすると、第三画面に人物の概要が示される。

2　「人物史」掲載するのは『関西大学百年史　人物編』に取り上げられた人物一一六人と、『百年史』以降に発表された「続　関西大学を築いた人々」に掲載された四人とする。

3　人物の概要は『百年史　人物編』に記載されたプロフィールをアレンジしたものとし、写真も同時に掲示する。

【「関西大学　栄光のスポーツ史」画面の構成】

基本的には「略史・略年表」と同様の画面構成とする。第一画面のホームポジションで「栄光のスポーツ史」を選ぶと、第二画面にスポーツに関する略年表が表示される。その中から第三画面とリンクがはられている事項や人名をセレクトしてクリックすると、第三画面にその概要が示される。

【本学ホームページとの関連】

現在、関西大学のホームページには、「関西大学の概要」の中に「関西大学の歴史」が、また「学生サービス」の中に「栄光のスポーツ史」がそれぞれ収録されている。年史編纂室のホームページが開設された場合は、これらの項目を移管することとする。

作業工程

ホームページ作成業務は、平成十四年十一月から取り掛かった。四月から十月までの間で、年間の定例業務をできるだけ処理するように努め、十一月から作成に専念する計画を立てた。

ホームページを構築する前に、データの整備作業を行った。「人物紹介」については、昭和六十一年に刊行された『関西大学百年史　人物編』の各人物一一六名の略史を再入力した（担当、年史編纂室課長・熊博毅、同室嘱託・藤本道人）。

「大学の歴史」については、先に刊行した『関西大学一一五年のあゆみ』の巻末に付された年譜データを活用し、ホームページ用に再編集した。

「スポーツの歴史」は、平成六年に刊行された『関西大学百年史　年表・索引編』および『関西大学年史紀要』の年表データを再利用したが、『年表・索引編』のデータについては、富士通のオアシス文書（表形式）からWINDOWS Office2000のEXCEL文書に置き換える作業が難航し、結局はデータの大半を再入力することになった（担当・当室専任職員・福井智佳子、当室定時職員・谷幸子）。

これら文字（テキスト）データの整備は、平成十四年八月から十月まで続いた。写真データについても、『関西大学一一五年のあゆみ』を編集した際に作成した収録写真のCD-Rを利用した。それ以外の写真データ（約百点）は、写真スキャナで読み込み、画像処理を行った（担当・福井）。

さらに、外字、特に人名にでてくる文字の扱いについては、その文字をレタリングしてスキャナで画像データとして処理し、ページに貼り付けた。

実際の作成業務

十月末、大まかなデータが揃い、Webページ（wwwブラウザに表示される画面）を構成していく段階に入った。実際の作業は「ホームページ・ビルダー」v6.5 with HotMedia（日本アイ・ビー・エム株式会社）を使用した。このソフトを選んだ理由は、比較的簡単に操作できるものだったことである。課内でこのソフトの使用経験者が

いたこともソフト選択の大きな要因となった。

実際のページ作成作業については、煩瑣を極めた。実質的な作成担当者は取扱説明書や、インターネット上に公開されている「ホームページ・ビルダーの使い方」等を参考にしながら、慣れるまでは一ページ作成するのに半日がかりで作業する状態だった。

当初、十一月から十二月末までに完成する予定で日程を組んでいたが、全体で二五〇ページ以上にもなることから、作成開始二週間ほどで大幅な日程修正を迫られることになった。

デザイン

ホームページ作成の上で大きな比重を占めるのが、デザイン構成とリンク作業ではないだろうか。

デザインについては作成担当に一任されていたため、次の点に留意しながら作業を進めた。

一、本学のスクールカラーである紫紺またはその周辺色（青系統）をできるだけ採用する。

二、文字は明朝体を使用する。

三、壁紙は多種類にならないように努め、派手にならないよう留意する。

この三点だけを最初に決め、あとは担当者が適宜判断しながらページ作成にとりかかった。

「ホームページ・ビルダー」では、バラエティに富んだ素材集や、Webページの各要素を自由に配置できる「どこでも配置モード」機能（あらかじめ基準とする画像解像度を決めてWebページのサイズを設定し、その大きさに合うようにWebページを作成できる機能）があるなど、初心者

関西大学年史編纂室

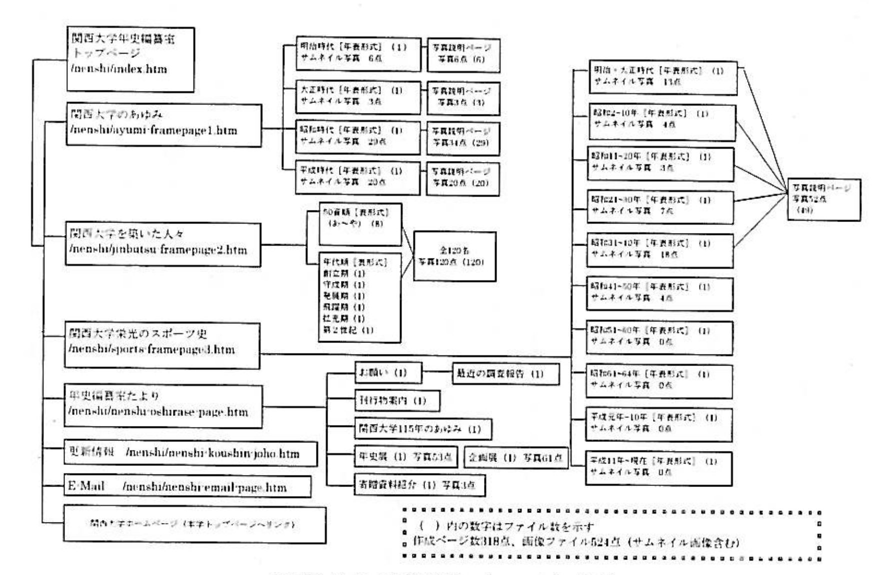
明治19年（1886）11月4日、大阪にひとつの法律学校が誕生しました。関西法律学校—関西大学の前身です。
それから116年、幾多の苦難と歓喜を紡ぎながら、私学の雄として、現在の関西大学に発展いたしました。
このホームページでは、関西大学の足跡を紹介していきたいと思っております。

2003 4 1 開設

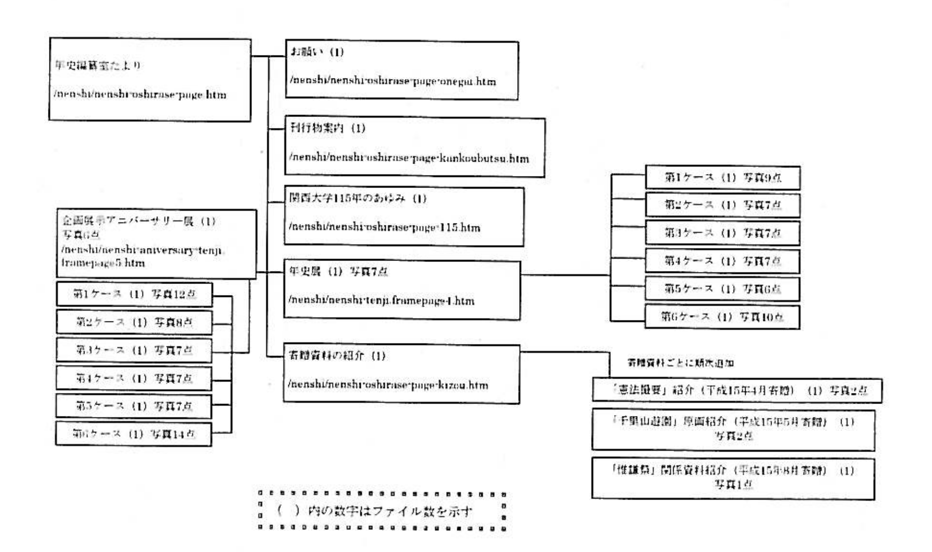
CONTENTS

関西大学のあゆみ	関西大学を築いた人々	関西大学栄光のスポーツ史
更新情報	年史編纂室たより	E-MAIL

関西大学年史編纂室ホームページ



関西大学年史編纂室ホームページの構成



年史編纂室たより　概要

でも利用しやすく、慣れてしまえば、滞りなく進んだ。

一度、大まかな画面デザインが決まると、あとはそのページを複写し、テキストデータを変えてページを作成していく作業の連続となった。

リンク作業はページ作成後、最後に一括して行った。リンクは関連するファイルが存在する場合は、すべてハイパーリンクを張るように努めた。

例えば、「築いた人々」（人物紹介の構成）内「児島惟謙」紹介ページにリンクを張る場合は、「関西大学のあゆみ」（歴史紹介の構成）に点在している「児島惟謙」という語句すべてにリンクを張るようにした。また、リンク漏れがみつかったものは、平成十五年四月の稼動後も修正を加えて補った。

その他のページ

先に述べた「関西大学のあゆみ」「関西大学を築いた人々」「関西大学栄光のスポーツ史」のほかに、年史編纂室からの情報発信を目的とした「年史編纂室たより」を設けた。ここは、できるだけリアルタイムな情報を公開することで、閲覧者から情報を収集することを目指した。

ここで、「関西大学年史展」と「寄贈資料の紹介」ページについて紹介したい。

「関西大学年史展」は現在、新関西大学会館・南棟・インフォメーションロビーにおいて開催されている年史展示の様子を簡単にまとめたものである。

ホームページは不特定多数の閲覧者に向けて発信するため、「年史」という言葉に馴染みのない人たちに展示の様子を見てもらうことで、「大学の歴史を扱っているところなんだな」という認識だけでも持ってもらいたい、という思いから作成した。

その中の、「寄贈資料の紹介」では、普段、なかなか発表する機会のない寄贈資料を広く周知することができると考えている。

完成して

こうして、年史編纂室のホームページが完成した。総ファイル数八二六点、画像ファイル四〇六点（サムネ

イル状のものを含む）、作成ページ数二七〇ページ。総容量は八・四MBとなった。委員会で了承された構成と若干の誤差は生じたものの、大方それに準じて作成できた。その後の更新作業により、総ファイル数八八三点、うち画像データ五二一点、作成ページ数三一八ページ。総容量は八・九MBである（平成十六年二月現在）。

今後の課題・閲覧者数

ホームページは閲覧してもらわなければ意味がない。およそ月一万件のアクセス数を、今後も維持し、さらに増やしていくために、継続的な情報の発信と、ホームページ作成の技術の向上が求められている。

これまでのところ、寄贈資料の紹介や、新たに考察された年史資料の検証報告に加え、平成十五年十月から開催された企画展「関西大学アニバーサリー展」の模様などを、平均して月一回のペースで更新している。いかに飽きられないようにするか、いかに興味をもってもらうか、ホームページは立ち上げ後の運用に、この業務の難しさがあると実感している。

今後の課題・年史資料の増強

「新しい時代ほど、資料が少ない」。これは常に認識していながら、いまだ具体的な解決に至っていない問題である。

何度か打開策を講じているのだが、うまくいっていないのが現状である。今回でいえば、昭和五十年代以降の学生スポーツに関する写真資料の層の薄さが、ホームページ作成にその影を落とした。

また、平成八年の本学ホームページ開設から七年あまりが経過した段階での当室ホームページ作成について、もっと早く出来たのではないかというご指摘、さらに作業開始から四ヶ月かかったことへのご叱正も受けた。

これらを厳粛に受け止め、課内業務の抜本的な見直しをしていかなくてはならないと考えている。

まとめ

年史業務では、時より「資料が資料を呼ぶ」ことがある。また、「過去が未来を予見する」ことにも遭遇する。

ある人の歴史を調査していると、ご子孫から偶然に連

絡を頂戴したり、年代不明の資料を調査している時に、それが写った写真が出てきたり、といった具合だ。

ホームページの運用も軌道にのり、懸案だった写真資料の再整理業務をしていたある日、一冊の図書が当室に寄贈された。昭和五六年に発行された『別冊　一億人の昭和史　学徒出陣』（毎日新聞社発行）で、この中に、太平洋戦争が勃発した昭和一六年一二月八日朝の、千里山キャンパスの写真が掲載されていた。写真提供者が不明で、どのような経緯で掲載されたのかわからなかったが、当時の学長、神戸正雄が学生たちに開戦の詔勅を述べているもので、今まで見たことがない写真だった。

ところが、寄贈されてから二日もたたないうちに、再整理の写真群の中から、その原版が発見されたのである。写真の裏には、当時の学生がそのときの心情を記していた。

その神戸学長が、時を遡った大正八年一月、第一次世界大戦の戦後処理について、論考を掲載している。本誌の212ページに新聞記事集成として収録しているが、その中で日本は、「軍国主義や戦争を根絶する為め」に「尚一歩進んで常備歩兵の縮小といったやうな大勇断でも行つて世界を驚かしたら一層妙であったと思ふ」と記している（83　記事　戦後の財政整理問題（三）より）。

偶然とはいえ、神戸正雄に関する資料が続いたことに、何か資料に呼ばれたような気分になった。神戸学長の時代は、修業年限短縮、勤労奉仕、学徒出陣、さらに文科系学部の統合など、本学歴史の中でも特に苦しい時代だった。昭和十六年の冬に、詔勅を訓示する神戸は一体、何を思ったのだろうか。そして、大正八年の冬に計五回の連載記事が、現在に採録されることを、彼はどう思うのだろうか。

年史の業務では、ともすれば今回のように「資料に呼ばれる」ことがある。ホームページ運用、資料整理、紀要編集という日常的な業務の中で、常に資料の声を聞き逃さないようにしなければならないと、改めて感じた。

大学を取り巻く現状だけでなく、国際情勢までもが急速に変化していく今、大学の歴史を大学内だけで完結させることなく、歴史の声を発信し、それを共有してもらうことが、大学年史の大きな役割であることを再認識し

つつ、今後の業務に取り組んでいきたい。

以上

関西大学年史編纂室
http://www.kansai-u.ac.jp/nenshi/index.htm
太平洋戦争開戦当日の写真紹介記事
http://www.kansai-u.ac.jp/nenshi/nenshi-oshirase-page-15-11-28-taiheiyo-senso.htm
関西大学のホームページ「教育研究」サイトからも閲覧できます。